

## かなた 夢の彼方への旅



イボットソン

エヴァ・イボットソン 著  
三辺律子 訳  
偕成社

事故で両親を亡くしたマイアは、ロンドンの寄宿学校で暮らしています。マイアには両親が残してくれた財産があり、生活には困りません。その財産に目を付けた意地悪な親戚がマイアを引き取ることにしました。マイアは学校をやめ、家庭教師のミントン先生とともに親戚が待つアマゾンへと旅立ちます。緑が生い茂り、美しい自然そのままの大地アマゾン。この土地で、マイアは親戚に意地悪をされながらも、素晴らしい友人たちを味方にし、自分の生きる道を見つけしていきます。

## リトル・トリー



カタ

フォレスト・カーター 著  
和田琴男 訳  
めるくまーる

リトル・トリーは母親が亡くなり、山の中でインディアンの祖父母と一緒に暮らすことになりました。リトル・トリーは母なる大地にかこまれ、自然とともに成長していきます。そして祖父母から、生きていくうえでのおきてを学び、失われてゆくインディアンの魂を受けつづけます。1930年代を舞台に、テネシー山中で幼少期を過ごした、チェロキーインディアンの作家フォレスト・カーターの自伝的回憶録です。



## グリム童話とアンデルセン童話

グリム童話やアンデルセン童話は、みなさんがよく知っているお話が多いでしょう。たくさんのお話が出版されています。その中から、おすすめの童話集を紹介します。



### グリム童話集 1



グリム

グリム兄弟 編  
相良守峯 訳  
岩波書店

グリム兄弟は、ドイツの家庭などで語りつがれている物語を集め、子どもたちが読めるようなやさしい文章で書物にしました。

#### 『赤ずきん』

むかし、あるところに小さな女の子がいました。おばあさんからおくられた赤いピロートのずきんがよくにあうので、「赤ずきん」とよばれていました。ある日、おばあさんからおつかいをたのまれます。森の中にすんでいるおばあさんに、おかしとブドウ酒をもっていくのです。森に入ったところで、赤ずきんはオオカミにいました。オオカミのおそろしさを知らない赤ずきんは、ちっともこわくありません。

#### 『いばら姫』

おきさきさまが水あびをしていると、カエルが話しかけました。「お姫さまがほしいんですが。それなら1年たたないうちにさずかりますよ。」まちのぞんでいたお姫さまがうまれ、王さまはおいわいの会をひらきます。この国の仙女たちもまねかれますが、ひとりだけよばれなかった仙女が腹いせをしようとあらわれました。

### アンデルセン童話集 1



アンデルセ

H.C.アンデルセン 作  
初山滋 絵  
大畑末吉 訳  
岩波書店

アンデルセンは、デンマークの童話作家です。その豊かな想像力で、多くのお話を残しています。

#### 『みにくいアヒルの子』

おかあさんアヒルが、たまごをかえそうと巣の中にくわっていました。つぎつぎとひなたちが出てきましたが、いちばん大きなたまごはまだのこっています。とうとう、その大きなたまごが割れました。見ると、たいそう大きくてみにくい子でした。

#### 『人魚姫』

海の底にたっている人魚の王さまのお城には、6人の人魚姫がいました。なかでも末の姫はみんなのうちでいちばん美しく、ふかい湖のように青い目をしていました。姫たちは15さいになると、海の上に浮かびあがっていくことをゆるされます。末の姫も15さいになりました。海の上には、大きな船が浮かんでいます。船室の窓から中を見ると、着がざった人が大ぜいいました。中でもひときわ目立って美しいのは、大きな黒目がちのわかい王子でした。